

令和7年度 第2回 桜井市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進会議 議事要旨

日時 令和7年10月21日（火）9：30～11：00

場所 桜井市役所本庁舎3階 災害対策本部室

参加者 会長：前野孝久

委員：土家靖起、河合淳好、上田剛裕、北尾春樹、中村正徳※、林勤、清水正男、吉田敬岳、
中井尚美、堀井良殷、中芝重統

※委員に代わり代理者が参加

- 案件
- (1) 第2期桜井市デジタル田園都市国家構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標/KPI 値について（資料1）
 - (2) 令和6年度桜井市移住支援金等の状況について（資料2・3・4）
 - (3) 令和6年度企業版ふるさと納税の寄附状況及びプロジェクト活用実績について（資料5・6）
 - (4) 令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）事業実施結果報告について（資料7）
 - (5) 第3期総合戦略（案）について（資料8）
 - (6) その他

内容

1. 開会

2. 会長挨拶

- ・本日高市総裁が女性初、奈良県初の総裁に選出される見込みである。高市総裁は、経済対策に力を入れるとの話もあり、国の動向も見ながら、行政運営を進めていきたい。

3. 議事

- (1) 第2期桜井市デジタル田園都市国家構想の実現に向けたまち・ひと・しごと創生総合戦略の数値目標/KPI 値について

- ・説明資料を用いて、事務局より説明を行った。

質疑応答

○舛田代理

- ・基本目標④の広域路線バス1日あたりの乗員数について、単位は人で問題ないか。

○事務局

- ・問題ない。

○前野会長

- ・今回の評価で達成できない指標については、今後向上するように取り組んでほしい。達成できる、概ね達成できると評価した指標については、引き続き取り組む。

- (2) 令和6年度桜井市移住支援金等の状況について

- ・説明資料を用いて、事務局より説明を行った。

質疑応答

○吉田委員

- ・令和7年の移住件数が2件というのは他都市と比べて、多いのか。

○事務局

- ・他都市と比べて特別多い、少ないというわけではない。また、県の補助金は予算枠が制限されているため、桜井市の補助金を増やすことは容易ではない。

○吉田委員

- ・県の補助金は、桜井市が魅力的であるという理由などによって増やしてもらうことは難しいのか。

○事務局

- ・現状は難しいことが想定される。

(3) 令和6年度企業版ふるさと納税の寄附状況及びプロジェクト活用実績について

- ・説明資料を用いて、事務局より説明を行った。
- ・意見特になし。

(4) 令和6年度 デジタル田園都市国家構想交付金（デジタル実装タイプ）事業実施結果報告について

- ・説明資料を用いて、事務局より説明を行った。
- ・意見特になし。

(5) 第3期総合戦略（案）について

- ・説明資料を用いて、事務局より説明を行った。

質疑応答

○土家委員

- ・今回の総合戦略では、どのような人口維持・減少対策を事業に盛り込んでいるのか。

○事務局

- ・今回、策定する人口ビジョンでは、2020年の国勢調査の結果をもとに人口推計を行っている。この推計を踏まえた人口減少への施策としては、子育て支援の拡充等による合計特殊出生率の維持、転出者の減少を進めることを考えている。

○土家委員

- ・昨年度の石破総理が地方創生2.0と題して、地方の主体的な取組を支援するとしていたが、今回の総合戦略では、どのような桜井市の自主的、主体的な取組が盛り込まれているか。また、現行計画とはどのように違うのか。

○事務局

- ・現行計画との大きな違いとしては、現行計画では、人口を増加させることを目標としていたが、今回は、人口減少をどう抑制するかを目標として、事業を取り組むという点が大きく異なる。また、桜井市の自主的、主体的な取組としては市として各部局が横断的に行うこと、さらには、基本目標の3、4に力を入れて取り組んでいくと同時に、基本目標1、2を行うことで財源を確保していくことを考えている。

○松井市長

- ・高市総理は、地方自治体が独自で使うことができる補助金を拡充すると述べている。また、昨年度から第2世代交付金の制度もできている。桜井市として、地方創生に取り組む上でこれらの補助金や交付金を活用する予定はあるのか。また、活用する予定がある場合は、どの事業に活用するのか。

○事務局

- ・第2世代交付金は、令和7年度に山間地域の郵便局にマルチコピー機を導入したことと、行政手続きに関わるオンライン申請システムに活用している。令和8年度は未定であるが、AIやDXに関する事業に活用したいと考えている。

○前野会長

- ・今後交付金を有効的に活用し、企業誘致なども行いたいと考えている。

○吉田委員

- ・桜井市が他市と比べて、力を入れていくことは何か。

○事務局

- ・桜井市としては特に観光に力を入れていきたいと考えている。特に奈良市のインバウンド客を中心和地域に誘導し、受け入れることに取り組んでいきたいと考えている。

○吉田委員

- ・1990年代に東京都大田区で幼児教育無償化を進め、子育て世代が多く転入したということがあった。桜井市としては、基本目標3を達成し、人口の減少を抑制するために、交付金を子育て世代のための施策に使っていくべきではないか。

○前野会長

- ・子育て世代に住んでもらうためには、働く場や住む場所を確保する必要もあるため、それも一体的に進めていく。

○林委員

- ・桜井駅の南北をつなぎ、活性化するために、昭和62年からJRを高架化するという話が挙がっていたが、現在まで、事業化に至っておらず、資料にも記載されていない。ぜひとも今回の総合戦略内にJR桜井駅の高架化を事業の1つとして記載してほしい。

○前野会長

- ・高架化は県の事業であり、桜井市単独で進めることはできないとともに、大きな金額がかかるため、短期的に進めるのは難しいが、意見の1つとして承る。

○林委員

- ・大阪の駅のように近鉄及びJRの乗り換えが容易になるようにしていただきたい。

○河合委員

- ・荒井知事の時代にJRの高架化の話は挙がっており、桜井市としてやる気があれば実現可能であると考える。

○清水委員

- ・資料としては、立派なものを作っていただき問題ないが、以下3点を申し上げる。

1点目、人口が減少していく中で、桜井市の将来をどうしていくのか。2点目、DX化については、総合戦略内で具体的な事業の明記がないが、具体的に桜井市の行政サービスとしては、どのように活用することを想定しているのか。3点目、石破総理の時代に、幸せな日本をつくる

という発言があったかと思うが、桜井市に来ることで幸せに生活ができるような環境整備をしなければ転入者は増えないのでないのではないか。また、事業内に、「幸せ」というキーワードを盛り込むことはできないか。

○事務局

- ・1点目については、将来的には合併等も見据えて検討していく必要があると考えている。2点目については、市の職員自体が減少していく中でも行政サービスを維持するために DX を有効的に活用したいと考えている。3点目については、特に子育て世代が幸せと感じができるよう各部局と調整し、事業を進めていく。

○堀井委員

- ・総合戦略は作るだけでなく、内容や事業を市民にどう理解してもらうかが重要であると考えている。そのために、第3期の総合戦略後に桜井市がどうなるのか、まえがきなどに分かり易く整理してほしい。また、市としては、総合戦略を実施しているが、住んでいる身としては、その効果を実感できていない。桜井駅の北口は「はじまりの地」として、玄関口としての魅力が不足している。また、巻向駅は全く整備がされていないような状況である。行政だけでは難しいのは理解しているため、いかに市民を動かすかという視点でも事業を進めてほしい。

(6) その他

○事務局

- ・次回の会議は令和8年2月25日9時より災害対策本部で実施する。

以上